

キャンパス案内

①神戸三田キャンパス ランバス記念礼拝堂
創立111年の記念事業として建築された礼拝堂。180人を収容し、本格的なパイプオルガンを設置しています。

②I号館(総合政策学部担当事務室)

③II号館(総合政策学部)

④III号館(総合政策学部)

⑤第一厚生棟

食堂と売店が入っています。

⑥Central Garden

⑦体育館

⑧第三厚生棟

コンビニエンスストアやカフェ、学生ホールが入っています。

⑨Sky Garden

広大な芝生広場。天気の良い日は青空の下でお弁当を食べている学生も。

⑩第二厚生棟

食堂、学生ホール、ラウンジが入っています。

⑪アカデミックcommons

『「学習」と「憩い」と「学生活動」の融合』をコンセプトに建てられた、学生の学生による学生のための生きた学びの場。ゼミや自主勉強会などのグループ学習に使われるほか、教員や学生によるワークショップなど気軽に参加できるイベントが行われています。カフェや和室もあります。また、神戸三田キャンパス事務室やキャリアセンター、国際連携機構、教務機構といった事務室も集まっています。



⑫バスロータリー

(神姫バス停留所「関西学院大学」)

バスの学内乗り入れができるよう、新たにバスロータリーが校内につくられました。

JRの三ノ宮駅、三田駅、新三田駅と神戸三田キャンパスを結ぶ路線バス、西宮上ヶ原キャンパスへのシャトルバスが発着します。アカデミックcommonsのラウンジと屋根付き通路でつながっているため、バスの様子を確認しながら待ち時間を過ごすことができます。

バスが同窓生にはおすすめ！JR三ノ宮・新神戸駅と神戸三田キャンパスを結ぶ、関学EXPRESSが、最速45分で直通で関学まで運んでくれます。JR三ノ宮発12時10分が便利です。料金は800円です。新三田駅や三田駅から乗る場合は、オレンジの独ベンツ社製の連節バスを見つけたら乗ってみて下さい。学生でなくても乗ることができます。

⑬IV号館(理工学部)

⑭V号館(理工学部)

⑮VI号館(理工学部担当事務室、図書メディア館、研究推進社会連携機構)

20万冊の社会科学、自然科学の図書、1,800タイトルを超える学術雑誌を所蔵する図書館があります。また、一般企業からの技術相談の窓口となる研究推進社会連携機構(社会連携センター)も入っています。

⑯VII号館(理工学部)



アーチ



①神戸三田キャンパス
ランバス記念礼拝堂



②総合政策学部I号館



⑨Sky Garden



⑪アカデミックcommons



⑫バスロータリー
(神姫バス停留所「関西学院大学」)



⑮VI号館(理工学部)

神戸三田キャンパスへ 行ってみよう！

関西学院大学神戸三田キャンパスは、1995年に開設され、去年20周年の節目を迎えました。

校舎の建物は西宮上ヶ原と同じように、スパニッシュ・ミッション・スタイルを採用しています。

最新設備と自然環境が調和したキャンパスでは、知的好奇心に満ちあふれた学生たちが生き活きと学んでいます。

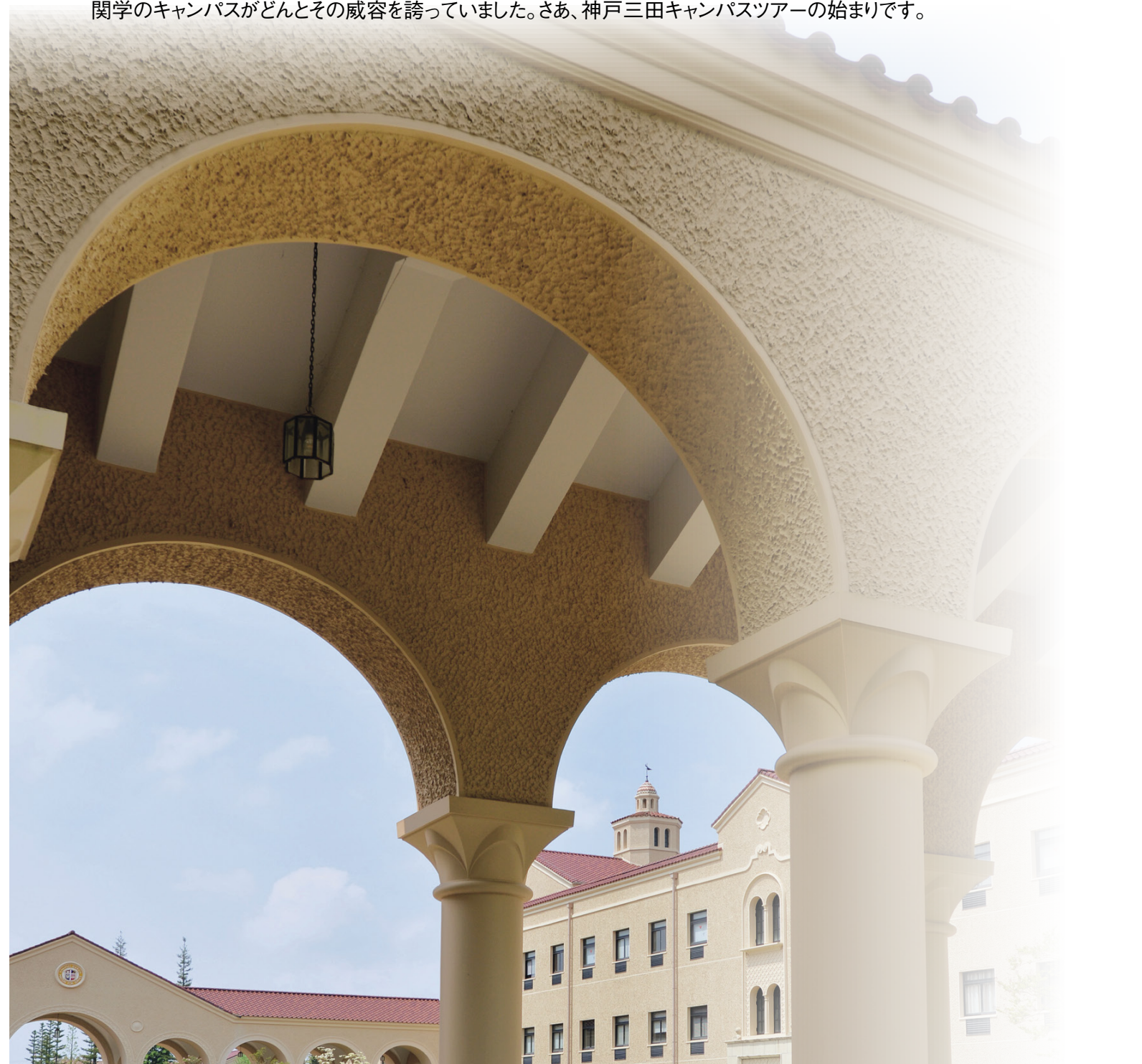
同窓の皆様は、神戸三田キャンパスに行ったことがありますか？ 同じ関学なのに、21年の歴史を持つ

神戸三田のキャンパスをどこか遠いものと思っていないか？

もっと身近にもっと深く神戸三田キャンパスを知りたいと、「母校通信」編集委員が訪ねてみました。

JR新三田駅からバスで15分、周りには高校やカルチャータウンがあり、緑豊かな学園都市の中で、

関学のキャンパスがどんとその威容を誇っていました。さあ、神戸三田キャンパスツアーの始まりです。



学生の学生による学生のための
学びのテーマパーク

アカデミックコモンズ



間仕切りがない
広々とした
共同学習スペース

神戸三田キャンパスの中心に位置するアカデミックコモンズは、2013年に開設された主体的な学びの空間です。2階まで吹き抜けで自然光を十分に取入れた約800㎡の「アクティブラーニングゾーン」は、グループでのミーティングや課題に取り組むための共同学習スペース。空間を仕切る壁はなく、その代わりに、学習スタイルやグループの人数に合わせて効果的に活動できるよう、さまざまな形の可動式の机と椅子が置かれています。



中谷課長補佐

「うるさく騒いだり、ごみを置いて帰ったりする学生はいません。みんな本当に真面目にディスカッションをしたり、レポートを書いたりしています。視察などお越しになった他大学の方々が驚かれるんですよ」と案内の中谷課長補佐が胸を張る。学びのための議論の声は不思議と耳障りではなく、各人の学習意欲をさらに高めるようです。

仕切られた部屋でより真剣な議論をしたいグループのための空間も複数用意。いずれも仕切りはガラス張り、どんな取り組みをしているのか、常に周りから見えるようになっています。

このような共同学習スペースは西宮上

ヶ原キャンパスにも作られています。ゆったりとしたオープンスペースで、学生たちが、三々五々学習に取り組んでいました。勉強ばかりではなく、貸し出し手続き不要で本が利用できるカジュアルライブラリーや、英語に親しみを持ってもらおうと寄付によって備えられた英語版の漫画コーナーもあり、上手にキャンパスライフを楽しんでいる様子でした。

学生が企画する アクティビティと プロジェクト

アカデミックコモンズならではのユニークな活動が学生の企画によるアクティビティです。ミニ講演会やワークショップなどを実施した場合、「アクティビティ企画書」を提出し、承認されれば施設内の部屋や備品を利用できます。

一例を挙げると、「南極観測隊の日常って？」は元南極観測隊員の早川由紀子・理工学部契約助手の体験談を聞くアクティビティでは、知られざる南極生活を

知る機会となりました。

「原点（beginning）」は1年生が自身を振り返り将来のプランを考えるワークショップ。約50人の学生が集まり、それぞれの将来を語り合いました。このようなアクティビティは年間約130実施され、「こんなことをやったら面白いかも」という学生のアイデアが満載。

アクティビティとは別に、掲げた目標に向かって一定期間活動するのがプロジェクトです。1年を通して行うタイプは年度初めに募集が行われ、申請が通れば

輝く未来のために、社会のあり方を変えよう！

理工学部

化。基礎から応用まで幅広くカバーする9学科体制に生まれ変わりました。

新生理工学部では、「グリーン・イノベーション」と「ライフ・イノベーション」という2つのキーワードを旗印に、現代社会が抱えるさまざまな課題の解決を目指しています。「グリーン・イノベーション」とは、再生可能エネルギーの開発をはじめ、エネルギーを効率よく運用していくため、そして温暖化など地球規模の環境問題を改善するための技術開発。

一方、「ライフ・イノベーション」は遺伝子治療や再生医療など最先端医療の研究をさらに進め、人々の健康や生活をより豊かにするための技術開発です。

学生たちは、世の中のニーズに応えるため、自由な発想とチャレンジ精神で研究に取り組んでいます。

人と社会に貢献する 新技術を生み出す 研究拠点9学科

他校に先駆けた取り組みに優秀な教授陣を揃えて、魅力的で先進的な研究が日々行われています。

●数理科学科：数学を用いて社会現象を読み解く

●物理科学科：宇宙の始まりや生命を物理的に探求し、新しい科学技術の扉を開く

毎週水曜はクレセントアワー

水曜の12時50分から13時20分までの30分間、アクティブラーニングゾーンの飲食可能エリアで行われているのがクレセントアワー。教職員や学生たちが自分の研究や活動について熱く語る名物企画です。「難しい話は一切なし」が決まり。一般の人でも参加できるので、時間が合えば出向いてみてはいかがでしょうか。アカデミックでかつ面白いランチタイムが過ごせます。

大変興味深い、面白そうな内容が盛りだくさんです。是非一度聴きに行きたいもの。隣のクレセントラウンジでは、色々な家具や和室もあり、バスを待つ間、友人との語らいの場にもなっています。



「Feel Learning感学」



クレセントアワー

「プロジェクト」の「Feel Learning感学」は、小生対象のプログラミング教室を多数開催。加西市から助成金を獲得し、高校生にワークショップの方法を教える活動も実施されました。

「アドバイスはしますが、基本的に学生の主体性を尊重します。総合政策学部と理工学部の学生と一緒にやっているプロジェクトもあり、文理融合から面白いものが生まれています」と話すのはコーディネーターを務める理工学部の已波弘佳教授。15年度は7つのプロジェクトが動いています。

アカデミックコモンズの目指すところは、現代の「アテナイの学舎」。学生が主体的に学び、先輩、後輩、教員、学内外の人々と交流し、そこから自分の目指すものを見つけて研究し、発表、ディスカッションできる場。

この中で、ここが今の学生はすごいと我々昔の学生は感心しきりでした。



左から大村室長、加藤学部長、已波学長補佐

少し緊張しながら訪れた我々に、加藤学部長はじめ3名の教職員の方々が暖かく迎えて下さり、専門的な学部・学科の内容を、門外漢の我々にもわかるようにかみ砕いて、かつ大いに熱を込めて話して頂きました。

理工学部の始まりは1961年。物理学科と化学科の2学科から成る理学部が設置されました。2002年、生命科学科、情報科学科を新設し、理工学部へ改組。その後、数理科学科と人間システム工学科を加え6学科を擁したことで、基礎研究の分野を網羅する形となりトップレベルの研究が行われてきました。

そして2015年4月、先進エネルギーナノ工学科、環境・応用化学科、生命医化学科を新設し、応用開発の部分を強

NEW!

●先進エネルギーナノ工学科：ナノテク物質材料を研究、エネルギー革新に挑戦

●化学科：医薬品やエレクトロニクス材料など、未来につながる物質の創製を目指す

NEW!

●環境・応用化学科：化学を使って環境に優しい豊かな社会の実現を目指す

●生命科学科：微生物や動植物の生命現象を解明し、現代社会の課題解決に活かす

NEW!

●生命医化学科：先端医療として人の疾病治療や健康維持に貢献

●情報科学科：情報通信技術の本質を理解し、より革新的な情報技術の開発に取り組む

●人間システム工学科：人と機械、生活環境への理解を深め、人にやさしいシステムの開発

ハイレベルで魅力的な研究

先進エネルギーナノ工学科の水木純一郎教授は、放射光施設「Spring-8」の放射光X線を駆使して、物質の反応・機能のダイナミクスなどを観察。反応の仲立ちをする触媒の仕組みを電子レベルで解明しようとしています。

人間システム工学科の長田典子教授は人間の感性を数値化する研究を進めており、その分析結果は企業の製品開発などに活用されています。

また、情報科学科の已波弘佳教授の研



ます。現地を訪ね、観察し、関係者から話を聞き、問題点を明らかにして解決策を探っていきます。ネパールの小学校で教育の現状を調査したり、東日本大震災の被災地でコミュニティFM局に自主制作した「寄席」番組を提供したりと、それぞれのテーマで、問題解決に取り組んでいます。

総合政策学部が誇る知の祭典 リサーチ・フェア

リサーチ・フェアは、毎年秋に行われる研究成果の発表の場。1998年に始まり、他学部や他大学の学生、一般の人や高校生などにも広く開放されています。口頭発表やワークショップ、英語のみのプレゼンテーションなど、発表スタイルもさまざま。参加者から鋭い質問や厳しい

研究室はテレビアニメ「のだめカンタービレ」のCG製作に関わりました。音と動きを同期させる世界で初めての方法を開発。それを応用してピアノ演奏シーンを製作しました。

その他にも数々の高度な研究が進んでおり、その多くが、国が先端的研究を支援する「科学研究費助成事業」に採択されています。さらに企業との共同研究も盛んです。

十分に理解したかはわかりませんが、何か妻いことが行われている場所であり、教授も学生も意欲と誇りをもっており、組んでいる場所であることは、よくわかりました。産学共同の研究や、環境に優しい未来への研究など、何だかワクワクしてきました。学生たちも研究室に遅くまで残って、研究に打ち込んでいるとのこと。頼もしい後輩たちが、日本の将来をきつと担ってくれるとの期待もあながち夢ではないかも。



意見が浴びせられ、そういった他者からの視点の研究をさらに前進させます。発表テーマは「観光立国で日本を元気にする方策について」「先進国と発展途上国の医療格差をなくすには」「など、社会が抱える問題を解決する糸口になるものばかり。誰でも参加自由な知の祭典を訪れ、学生たちの真剣な思いに触れることができます。

学部独自の英語教育プログラム EEC

総合政策学部で英語教育を担当するのは、語学教育の専門学位を持つネイティブスピーカーの教員たち。週4日、1・2年生全員が履修する「English Communication(EEC)」の時間は、指示も受け答えも全て英語。読み書きだけでなく、英語で思考する授業です。多様な文化的背景を持つ教員と日常的に話すことで、語学だけでなく、異なる考え方や価値観も自然に身に付きます。

また、優秀な成績で「EEC」を修了した3・4年生がラーニングアシスタントとして後輩の英語学習をサポート。課題のフォローやスキルアップのためのアドバイスをしており、年間千人を超える1・2年生が利用しています。

多彩な留学・海外支援プログラムもあり、関学が今目指しているグローバル化の最先端にあるのは、間違いないようです。今の時代に生まれていれば、海外にももつと羽ばたいていけたかもしれないと、見果てぬ夢を少し思い出しました。

社会に貢献する世界市民としてグローバル時代の難問に挑む

総合政策学部は、地球規模の諸問題に立ち向かう「世界市民」を育てる学部として、1995年、神戸三田キャンパスの開設とともに誕生。総合政策学科のみでのスタートでしたが、2002年には情報系のメディア情報学科を増設。テクニカルなスキル習得を重視し、演習設備、実習科目の強化を図りました。その後、2009年に都市政策学科、国際政策学科が加わり、4学科体制になりました。この時から、入学時には学科に属さず、2年次から学科配属されるカリキュラムに。1年次では、基礎演習や英語コミュニケーション、コンピュータ演習など、学びのスキルを身に付けるための科目や総合政策の基本知識を学ぶ科目を履修し、2年次から4つの学科に分かれて、専門性を身に付けていきます。

●総合政策学科：複雑に絡み合う地球規模の問題をあらゆる学問分野から考察し解決のために政策を立案・実行できる人材を目指す

●メディア情報学科：諸問題を解決するための政策を多様なメディアで発信するためのコンテンツ制作力を身に付ける

●都市政策学科：快適で安全で美しい都市を総合的・国際的な観点から理解し、未来に向けた都市を創造・提案・実現

産学連携の窓口

―研究推進社会連携機構

関西学院大学は教育と研究で社会や産業に貢献することを目指し、2002年に「研究推進機構(現在は研究推進社会連携機構)」を設立。ここを窓口として、これまでさまざまな企業と産学連携を進めてきました。共同研究の成果の中には、実際に製品となっているものもあります。

研究推進社会連携機構では、企業から寄せられた相談に対して「この先生のこの研究が役に立つのでは」と、関係する教員や研究員を紹介しています。「うちの会社で何か面白いことができないか」といったアバウトな相談でもかまいません。卒業生の皆さんからの相談をお待ちしています。

まずまず市場ニーズが多様化する現代、事業を活性化させるためには新製品や新技術の開発が必要です。また、市場調査や品質検査も欠かせません。そんな時、母校の知的資産を活用しませんか。相談してみようという方は、神戸三田キャンパスにある「研究推進社会連携機構」を訪ねてみてください。

実際に、関西学院大学ができること

- 企業からの受託研究
- 企業との共同研究
- 技術相談への対応
- 各種見学会の受け入れ
- 研究シース集の提供
- 受託研究員の受け入れ

―総合政策学部

する能力を獲得する
＊二級建築士の受験資格(2年間の実務経験が必要)が取得できる「建築士プログラム」が設置されている

●国際政策学科：国連の掲げる「国際社会における平和構築」「国際発展と開発」「人権の擁護」という3つの課題を中心に、国際政策の理論と実践を研究
＊国連などの国際機関での実務経験のある複数の教員が教育を行っている

総合政策学部の目標は、自然災害や国際紛争、発展途上国での貧困の拡大など、地球上で起こっている諸問題を解決すること。そのため、異文化理解力や政策立案力、高度な英語コミュニケーション能力、ITスキルなど、総合的な実践力の養成を目指しています。学生たちは、学内での学びだけでなく国内外でフィールドワークも展開。

海外フィールドワークとして、2015年からは、アメリカの「ソノマ州立大学英語研修&フィールドワーク」という学部独自のプログラムが始まりました。国内のフィールドワークとしては、「里山実習」「白山麓実習」「柏原まちづくりプロジェクト」「西脇市都市経営フィールドワーク」「有馬富士公園管理プロジェクト」「都市と建築空間フィールドスタディ」などをハンズオン科目として実施してい

「やっぱり、産学連携言ったかて敷居が高いなあ」と思われている、同窓の皆様も多いのではないのでしょうか?そういう窓口があることもご存じない方もおられるかもしれません。

「Mastery for Serviceの精神のもと、関学の持っている研究成果を知的財産として、社会に貢献するために活用する」という、素晴らしい理想を掲げ実践しておられることを伺って、もつともつと、同窓の皆様にも知って頂きたいと思いました。

利用して活用しなければ、宝の山もただの山にすぎません。神戸三田キャンパスには、アカデミックコモンズの精神にもあるように、自ら行動を起こす学生や教職員がたくさんいます。実際にこの連携で大きな成果を上げてこられた企業もありますし、今も神戸三田キャンパスで学生と共に研究開発に取り組んでおられる企業人もおられるそうです。さあ、OBたちよ、一度門をたたいてみませんか?

研究推進社会連携機構 ホームページ

研究の最新ニュース、各種研究プロジェクトの案内やイベント情報を掲載。各教員の研究業績も公開しています。

<http://www.kwansei.ac.jp/kenkyu/>

相談・問い合わせは
研究推進社会連携機構
TEL 079-565-9052
FAX 079-565-7910